「ソト」から見たおおあらい

Vol.58

国土交通省 関東地方整備局
鹿島港湾・空港整備事務所長
黒瀬 康夫

経歴：1984年石川県金沢市生まれ。2007年に国土交通省入省。総合政策局、港湾局、関東地方整備局、四国地方整備局、九州地方整備局、内閣府、外務省在ベトナム日本国大使館等を経て、2025年4月より現職。

大洗町の元気は「みなと」から！

大洗町の皆様、こんにちは！国土交通省 鹿島港湾・空港整備事務所の黒瀬と申します。

私どもは、茨城県内の規模の大きな港湾施設の整備などを担当しています。

今回、「ソト」から見たおおあらい、に寄稿させていただく機会をいただきました。

これまで海外を含め全国津々浦々で生活をし、今年4月から茨城県に住み始めたばかりである私の、「ソト」からの視点で大洗町を見てみようと思います。

ちなみに、この全国津々浦々という言葉ですが、昔は、みなとのことを「津」と呼び、入江や海岸のことを「浦」と呼んでいました。ですので、全国津々浦々というのは「全国のみなとや海岸にいたるまで全て」を意味します。

他にも、津波、という言葉も同じく、「津」はみなとのことですので、津波というのは「みなとを襲い被害を与える波」を意味します。

このような言葉の語源になっているように、昔から、みなとは重要なインフラでした。

みなとは、地域の経済や暮らしを支える重要なインフラなのですが・・・残念ながら、全国的、一般的には、みなとになじみがない人、みなとを見たことがない人の方が多いです。

実は私も、社会人になるまで、みなとを近くで見たことがほとんど無く、その役割もよく分かっていませんでした。

しかし、大洗町の皆さんは違います！

茨城港大洗港区が近くにあるため、みなとのことを良く知っているはずです。

大洗町ほど、人とみなとの距離が近い地域は、全国的にも珍しいと思います（※物理的な距離の話ではありません！）。

大洗マリンタワーの展望室からは、苫小牧港との間に就航している新しく美しいＬＮＧ燃料のフェリーが見え、胸が躍りました。

茨城県Ｎｏ．１の海水浴客数を誇る大洗サンビーチは多くの人で賑わっており、爽やかな夏を感じられました。息子もご機嫌でした。

かあちゃんの店では、美味しい海鮮に舌鼓を打っている方が大勢いました。

大洗シーサイドステーションは「映え」スポットが多くありましたし、めんたいパーク大洗も観光客で混雑していました。

そして、外港クルーズ船が寄港する際には、ＢＬＵＥ-ＨＡＷＫＳの演奏や小中学生のボランティアなど、町を挙げたおもてなしがなされていると聞いています。また、秋に行われる、商工感謝祭＆大洗あんこう祭で、みなとの中は大盛り上がりになると聞いており、とても楽しみです。

全国の中でも特に、大洗町はみなとが賑わいづくりの拠点になっています。

そして、私が最も感銘を受けているのは、大洗町では、賑わいづくりの拠点であるみなとの活用について、さらに進化／深化させようとしていることにあります。

今年の大洗海上花火大会は、史上最多の１８，０００発で、花火にあわせてクルーズ船も寄港します。加えて同日、大洗町誕生70周年を記念してブルーインパルスによる展示飛行も行われます。

まさに、大洗町の元気は「みなと」から！・・・です。

大洗町が、みなとを拠点としさらに元気に発展することを祈念申し上げ、寄稿文とさせていただきます。

「ソト」から見たおおあらいでは、各界でご活躍の方々から大洗についてのご寄稿をいただきます。